

火曜会通信

発行日：平成11年10月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1丁目1番地

伊丹市教育委員会事務局内

<巻頭言>

「豊中市桜塚古墳群」研修によせて

副会長 柴田 博

今まで、伊丹市内を中心に文化財の学習をしてきましたが、伊丹市を取り巻く市域まで学習の幅を拡げ、当市との関わりを調べようということで、定例会研修の一環として宝塚川西、池田と進み、今回9月14日（火）豊中市の桜塚古墳群を中心に研修しました。

まず、下調べの為豊中市教委に資料を求めて訪ねたところ、種々の資料を取り揃え説明していただいたうえ、当日の説明講師を派遣するとの配慮をしていただいた豊中市教委関係者の皆様に感謝申し上げます。

豊中市はすぐ隣の地域であるのに、案外知らないことが多く「桜塚も宝塚、塚口と同じように古墳に関係あるのかな」くらいの認識は大きな間違いで、古代遺跡も多く、4世紀末から5世紀末にかけての古墳群が、明治時代の絵図では36基も認められたといわれています。

しかし現存するのは、大石塚古墳、小石塚古墳、大塚古墳、御獅子塚古墳、南天平塚古墳の5基を残すのみとなり、開発の影に消える文化財の運命を辿ったということです。

南天平塚古墳以外は、いずれもかなり大きく立派な前方後円墳、円墳です。副葬品の数や種類の豊富なことは著名で、史跡としてよく整備され、見学者の眼にロマンと興味を映すに十分な説得力があり、文化財保護の姿勢が反映した管理がされているように感じました。

ここで素朴な疑問が一つ、なぜ猪名川左岸に古墳が多いのか？右岸にある伊丹台地の古代の環境は厳しかったのか？（大きくて御願塚古墳くらい？）

いやいや、これはこれから楽しみといたしましょう。

主な行事予定（11月から1月）

◇ 定例会

- | | | | |
|-----------|----------------|-------|---------|
| 11月16日（火） | 秋の研修バス旅行「加西市」 | 伊丹市役所 | 7時50分集合 |
| 12月7日（火） | 研究発表「有岡城」について | 中央公民館 | |
| 1月18日（火） | 研究発表「伊丹郷町」について | 中央公民館 | |

◇ 分科会「伊丹の街道」グループ

- | | | |
|-----------|--------------|--------------|
| 11月30日（火） | 「東天神社から西天神社」 | 市バス札場の辻停留所集合 |
| 1月25日（火） | 「昆陽寺からヒゲの渡し」 | 市バス昆陽の里停留所集合 |

◇ 分科会「村の歴史」グループ

- | | | |
|-----------|---------------|-------|
| 11月9日（火） | 研究発表「縁ヶ丘」について | 中央公民館 |
| 12月21日（火） | 研究発表「昆陽村」について | 中央公民館 |

前号（池尻の沿革・神社・寺院）に続く

水 利

昆陽池と玉田川（元天神川）、それに新田中野村西野で武庫川から取水する昆陽井が水源であった。

昆陽下池埋め立てについての争い

慶長13年（1608）昆陽村、池尻村が、昆陽上池の西にある昆陽下池を埋めて用地にしたいと願い出た。両村（幕府領）を預っていた片桐貞隆（大和小泉藩）は手代をもって検分させ、池を用地に変えることを許可した。

ところが山田、野間、友行、時友の4カ村が用水確保を訴え出た。そこで片桐氏の手で調整の結果、下池の用水が昆陽井の下をくぐる大ゆりの樋の蓋を透き間のある横板に取り替え、昆陽井の水の一部が大ゆりの樋に落ちるようにし一件は落着した。

池尻村、新田中野村境堤争論

元文4年（1739）4月、昆陽村、新田中野村から池尻村を相手取って訴えが起こされた。それは池尻村と新田中野村の領境の「耕作通道」を池尻村が新規に腹付けして堤にした。そのため昆陽村、新田中野村の田地の排水が悪くなつたので、「この新堤を取り払うよう命じられたい。」というもので争論の結果、

寛保3年（1743）「池尻村が築いたのは新堤であるとして、そこに腹付けすることは不可である」との裁決が下され本件は落着した。

昆陽井取樋口決壊 慶應2年（1866）

昆陽井の取口から下流に向かって築かれている尾なし堤と古野堤（「此所古野堤百間切込」とある付近に築かれていた）との両者にはさまれたところに、新田中野村西野の新田、池尻村の新田が開かれていた。

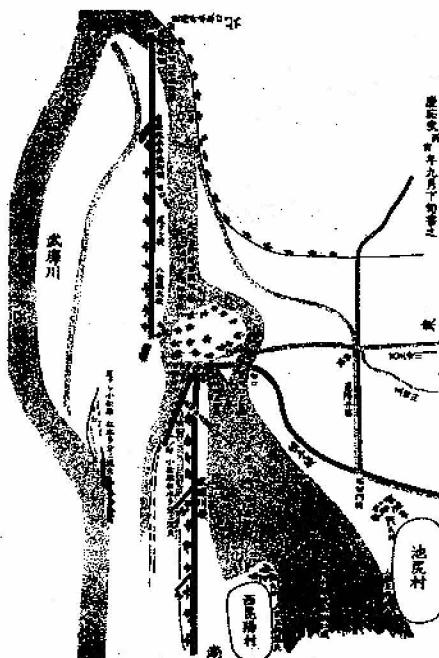
池尻村およびその下流の村々の田畠・集落は、この尾なし堤と古野堤で守られたうえ、池尻村本堤と横手堤でも守られていた。ところが慶應2年、昆陽井取樋口が切れて大水が尾なし堤と昆陽井筋の間に浸入し、さらに横手堤を突破して池尻村・西昆陽村の集落・田畠一帯に浸入した。池尻村の田地は一面川筋となり、西昆陽村では大淵になるところも出た。

<参考資料>

兵庫県地名大辞典

「地域研究 いたみ」

春日の神々



慶應2年昆陽井取樋口決壊洪水絵図

<私の発言> 特別講座「環境問題」の講演を聞いて

1%のゴミ減量を！

福岡 好子

能勢のダイオキシン公害問題が大きく報道された後、各地で焼却炉のダイオキシン排出量が話題になっています。そんな中、当地の豊中市伊丹市クリーンランドでは、平成10年度の国の基準を大きくクリアしています。

しかし、平成14年の基準は1ナノグラムとなる為、今ある4基の焼却炉の内3基は、昭和50年代製で改良を要します。そして、その費用は約40億円とは驚きものです。

もうひとつはゴミの搬出量を1%減量することで、多額の経費節減になるとのことです。今春、地区の班長、そして同時にクリーンランドのクリーンいたみ推進委員となり、ゴミ問題に関わっています。約半年経過した昨今、毎回出される多量のゴミと、正しく分別せずに出されるゴミの山に憤慨しています。

1%のゴミ減量を目指して、その方法論、そしてそれを広くPRする必要を強く感じています。そして文化財保護を目的とする意味でも環境問題はさけられないと思います。

1人1人がゴミ問題に自覚を！

山内 富美子

私達伊丹市民が毎日の生活の中で出すゴミの収集は、伊丹市の一般会計予算から出されています。そしてゴミ処理は、豊中市伊丹市クリーンランドでなされ伊丹市が14億円、豊中市が28億円の負担金を拠出しています。負担金の差は、人口やゴミの搬入量による差のようです。

ゴミが増える程、ゴミ関係の予算も増えるのは当然ですから、私達市民の血税をより有効に使うためには、市民1人1人が“ゴミの減量化”に努めることが一番のキーポイントです。そのためには、ゴミの適正な分別をしてビンやペットボトルは週1回の資源物回収日に、新聞・雑誌・ダンボール・古布などは自治会や子供会などの集団回収に、アルミ缶・スチール缶・牛乳パック・トレーなどは量販店や生協などの店頭回収に出すようにしたいものです。

クリーンランドで燃やした後に残るモエカス（焼却灰）の処理やダイオキシンの問題など、ゴミの增量に従いますますその対策への必要度が切実になってきます。ですから、伊丹市民1人1人がゴミ問題に自覚をもち、ゴミの減量化・リサイクル化に努力していくたいものです。

素びのむかひ語り

□ひび割れる墓石□

松本 繁

むかし村の小高い岡に井戸があったんよ。ところがよく干からびて水が1滴も出なくなったり井戸は、ゴミなんかを捨てる場所にされてしまつてな。ひどい時なんかすごい匂いの汚物が捨てられたりして、岡の井戸は近づけんかったんよ。

それでみんなで作り直そうってことになってな。喜んだったんやけどお墓にされてしまつてな。お払いもせず墓地にしたもんやから墓石が何度も作り直してもひび割れてしまうて、ひどい家なんか墓を建ててから七日もしないうちに墓石が割れてしまつたりしてな。だいたい岡や山はゴミ捨て場やないからねえ。

如 来	菩 薩	明 王	天 部
悟りを開いた以後の釈迦の姿 悟りを開いた以後の釈迦の姿	華やかで最高に着飾った釈迦の王子時代の姿	武勇に秀れた釈迦の王子時代の勇ましい姿	釈迦の王子時代の側近や家来たち
☆慈悲の「慈悲」を表現 ☆父の厳しさを持つ	☆慈悲の「悲」を表現 ☆母の優しさを持つ ☆如來の変身	☆強烈な慈悲心を表現 ☆親が子を命がけで守る表情を表す	☆如來や菩薩、明王の働きを妨げる仮敵を倒す戦士
<法力に応じて姿形を変える> 釈迦如來、阿弥陀如來、薬師如來、盧舎那如來、大日如來	<法力に応じて姿形を変える> 弥勒菩薩、六觀音菩薩、地藏菩薩、文殊／普賢菩薩、虛空藏菩薩など	<衆生を救う時五智如來が五大明王に変化> 大日如來→不動明王 阿彌陀如來→大威德明王 阿閻如來→降三世明王	四天王（多聞天叉の名を毘沙門天／增長天／広目天／持國天）、仁王、十二神将、大黒天、吉祥天、弁財天など

<リレー隨想>

私と火曜会

般部 浩夫

平成9年6月、定年退職してすぐに始めたのが一万歩ウォーキングです。体を動かす、汗をかくことで太めの体をスリムにとの思いで実行に移しました。伊丹市・宝塚市の公園や寺院を目標地点としました。

旧道や路地を歩くと古い石造りの常夜灯や昔からの道標に出会います。「右中山十八丁 左小浜有馬三田」等書かれていますとこの道は昔の街道だったことが想像できます。こんな道に限って道幅は狭く曲がりくねっていて、ところどころに大樹が見られます。また、幕末の寺子屋（酔墨堂）の跡地があったり、古代の遺跡に出会ったりで、今まで十数年も住みながら地域のこと町のことを知らずに過ごしてきたことに気付かされました。こんな時、手にした伊丹市広報に「文化財ボランティア養成講座」受講者募集の欄を目にしました。おかげさまで講座終了後「火曜会」メンバーとして定例会・分科会に参加させていただき、酒造の歴史を学んだり寺社や村の成立ちを知ることが出来るようになってきました。これからも郷土の歴史発見を楽しみながら続けたいと思っています。

次回は神戸市からご参加頂いている中尾さんにタッチいたします。よろしく

風辺城
に世跡
思の石碑
ふいに木々に刻む
へわたる

御秋雨
巻物見ゆ
めく
に杉の木の間に
青苔の庭

桜花
を惜しむ
はるかな
なる大和
三山に

平安の公
至宝展
いたる一
日京の雅
にばるる
にに

稻 實 道代

投稿
コ一ナ一

をしいにこをす第編
おままたれス。三集
待すすきも夕今号後
ち。た原一号をお
しごごい稿トから届
て感協願をしらりけ
お想力い大まりけ
りやをを勢す。！た
まごお込の
す意願め皆
見いて様 想ま